

安心は信頼と実績から

日本に初上陸するGenerac社は1959年の創業以来、家庭用非常用発電機を開発してきました。年間約14,000台を生産するGenerac社は米国内の家庭用・事業用非常用バックアップ発電機で、ナンバーワンのシェアを誇っています。



米国マーケットシェア No.1



GENERAC®

非常用ガス発電機

<http://caplant.com/generac/>

予測困難な自然災害



東日本で巨大地震



東北M8.8 国
多死者不明津波で



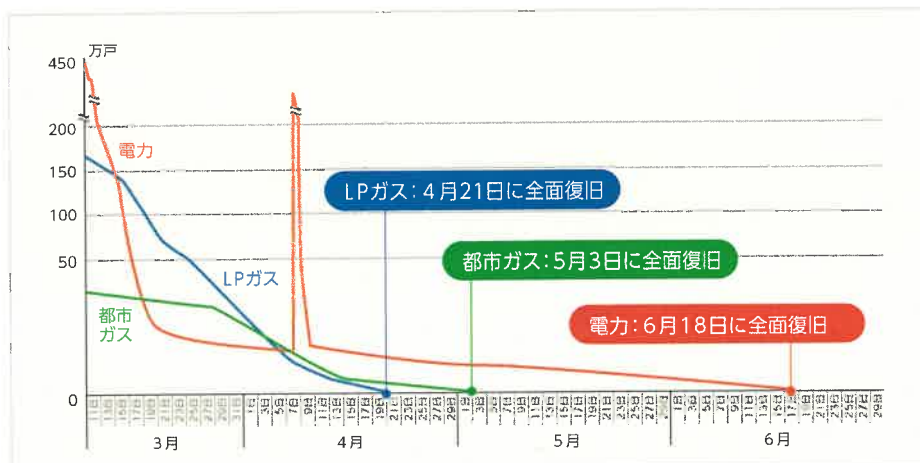
地球上ではこれまでに経験したことのない想定外の気象変動が起こっています。災害によって、電気や水道などのインフラが被害を受け、停電が発生することも少なくありません。しかし、止めることのできない電気機器は年々増え続けています。(携帯電話・パソコン・無線・冷暖房・ポンプ・透析器や痰吸入器や酸素などの医療機器ほか)このような非常事態の中で最後の砦となるのが、軒下在庫のできるLPガスを燃料とした「非常用発電機」です。災害発生時は、非常用発電機を導入したユーザーが地域社会に貢献し、大きな役割を果たすことは間違いありません。

※ 医療機器への接続および使用は、事前に医療機器会社・医師・病院等に確認のうえご使用ください。

災害に強いLPガス

「地震列島」と呼ばれる日本では、災害発生時においても安定的に使用可能なエネルギー源を確保することが重要な課題となっています。LPガスは、各需要家ごとに個別に供給可能な「分散型エネルギー」なので、災害発生時にガスの供給が遮断された場合も、個別に調査・点検を行うことで都市ガスや系統電力に比べて相対的に早く復旧させることができます。また、通常の場合、家屋の横にLPガス容器が2本設置されており、言わば軒下に在庫がある状態となっているので、1本目が切れても、2本目で1か月以上ガスを使い続けることができます。(50kg容器×2本の場合)そして、緊急時のエネルギー源として、避難所や仮設住宅等にも迅速に供給することができます。

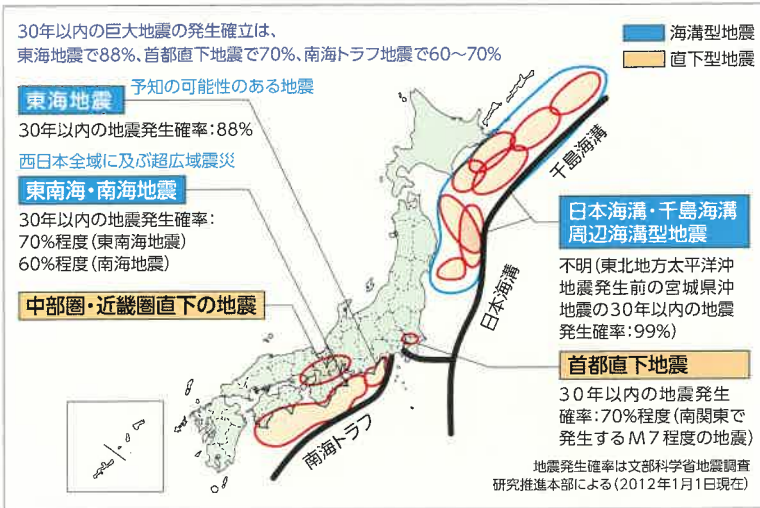
ライフラインとしてのLPガス



東日本大震災の被災地では、水道、電気、都市ガス、石油製品などの供給再開に相当の日数を必要としましたが、LPガスは、わずか数日で供給を再開しています。3月11日の地震発生後、全面復旧は4月21日(都市ガス5月3日、電力6月18日)LPガスは、復旧が早く、災害に強いエネルギーとして見直されています。

※参考元:日本LPガス協会ホームページ (<http://www.j-lpgas.gr.jp/feature/saigai.html>)

災害への備え



内閣府「東海地震、東南海・南海地震対策の現状」より

- 将来の地震発生の可能性
 - 地震の規模 : M8~9クラス
 - 地震発生確率 : 30年以内に、70%程度
 - 平均発生間隔 : 88.2年
 - 地震後経過率 : 0.78(地震後経過率とは?)
 - 南海トラフ全体を1つの領域として考え、この領域では大局的に100~200年で繰り返し地震が起きていると仮定して、地震発生の可能性を評価しました。

南海トラフは、日本列島が位置する大陸のプレートの下に、海洋プレートのフィリピン海プレートが南側から年間数cm割合で沈み込んでいる場所です。この沈み込みに伴い、2つのプレートの境界にはひずみが蓄積されています。過去1400年間を見ると、南海トラフでは約100~200年の間隔で蓄積されたひずみを解放する大地震が発生しており、近年では、昭和東南海地震(1944年)、昭和南海地震(1946年)がこれに当たります。昭和東南海地震及び昭和南海地震が起きてから70年近くが経過しており、南海トラフにおける次の大地震発生の可能性が高まってきています。

過去に南海トラフで起きた大地震は多様性があります。そのため、次に発生する地震の震源域の広がりを正確に予測することは、現時点の科学的知見では困難です。地震本部では、南海トラフをこれまでのような南海・東南海領域という区分をせず、南海トラフ全体を1つの領域として考え、この領域では大局的に100~200年で繰り返し地震が起きていると仮定して、地震発生の可能性を評価しました。

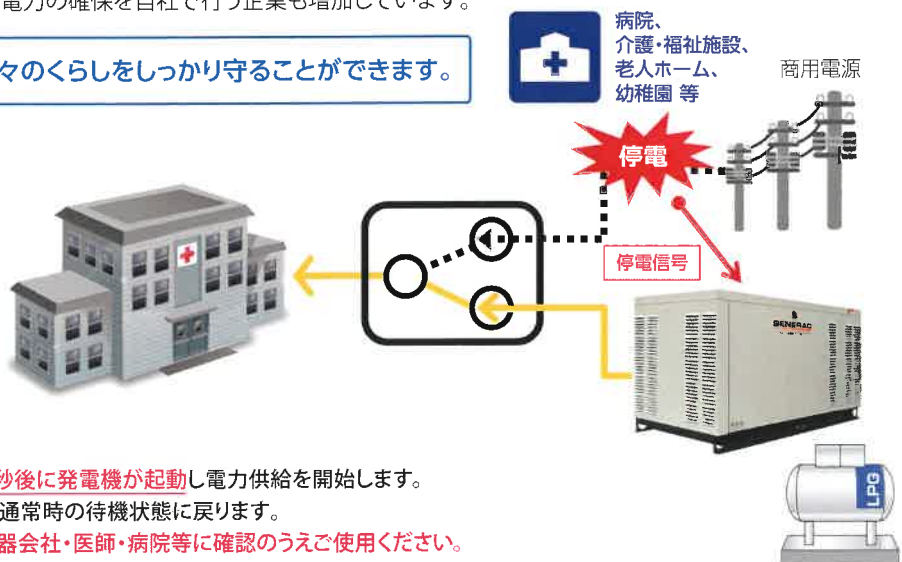
資料 地震調査研究推進本部事務局(文部科学省研究開発局地震・防災研究課)より

BCP 事業継続計画 (Business Continuity Plan)

東日本大震災による経済活動の大混乱の教訓から政府・自治体が中心となり「企業の生き残り対策」としてBCP(事業継続計画)の積極的推進活動が始まり、その周知と導入が急速に広まってきています。内閣府 中小企業庁では、すべての大企業と中小企業の半数以上にBCPの導入目標を掲げております。多くの企業にとって、電気・ガス・水道といったライフラインが復旧しないと、事業の再開ができないというのが現実です。BCPの導入に伴い、電力の確保を自社で行う企業も増加しています。

万一の災害時にも、利用者の方々のくらしをしっかりと守ることができます。

地震等の災害によって電気・都市ガス等のライフラインが寸断されても、発電機と災害用LPガスバルクを設置しておくことで、復旧までの数日間、患者さんや利用者の方の食事や暖房、シャワー等への給湯等、くらしのためのエネルギーを、継続してお使いいただくことができます。



- ・停電発生から停電信号を受信し、約10秒後に発電機が起動し電力供給を開始します。
- ・通電復旧後、約1分でエンジンが停止し通常時の待機状態に戻ります。
- ※医療機器への使用は、事前に医療機器会社・医師・病院等に確認のうえご使用ください。

60Hz

GUARDIAN® SERIES



Model. 6245
8kW

空冷式ガスエンジン非常用発電機

8 kW・11 kW・16 kW・20 kW・22 kW (単相)

定格出力	8kW
定格電圧	100/200V (単相)
定格周波数	60Hz
エンジン排気量	410cc
エンジン回転数	3600rpm
サイズ(mm)W×D×H	W1218×D637.6×H731.9
重量	163.3kg

LPガス

都市ガス

天然ガス

仕様

- ・自動切替 常時接続
- ・UPSなしで全ての機器が利用可能
- ・既設設備を平時と同様に使用可能
- ・通常の屋内コンセントが使用可能
- ・自動メンテナンス機能搭載
- ・据置型 本体移動不可
- ・通常運転時の騒音レベル66dB (本体から7m地点で測定)

60Hz

PROTECTOR QS® SERIES



Model. RG022
22kW

水冷式ガスエンジン非常用発電機

22 kW・27kW・32 kW・38kW・48kW (三相)

定格出力	22kW
定格電圧	200V (三相)
定格周波数	60Hz
エンジン排気量	2400cc
エンジン回転数	1800rpm
サイズ(mm)W×D×H	W1490×D776×H980
重量	410.5kg

LPガス

都市ガス

天然ガス

仕様

- ・自動切替 常時接続
- ・UPSなしで全ての機器が利用可能
- ・既設設備を平時と同様に使用可能
- ・通常の屋内コンセントが使用可能
- ・自動メンテナンス機能搭載
- ・据置型 本体移動不可
- ・セルフチェック時の騒音レベル 22kW~48kW 61dB~63dB
- ・通常運転時の騒音レベル 68dB~70dB (本体から7m地点で測定)

60Hz

COMMERCIAL® SERIES



Model. QT10068
100kW

水冷式ガスエンジン非常用発電機

70 kW・80kW・100kW・130 kW・150kW (三相)

定格出力	100kW
定格電圧	200V (三相)
定格周波数	60Hz
エンジン排気量	6800cc
エンジン回転数	2300rpm
サイズ(mm)W×D×H	W2925×D935×H1393
重量	1148kg (アルミニウム)

LPガス

都市ガス

天然ガス

仕様

- ・自動切替 常時接続
- ・UPSなしで全ての機器が利用可能
- ・既設設備を平時と同様に使用可能
- ・通常の屋内コンセントが使用可能
- ・自動メンテナンス機能搭載
- ・据置型 本体移動不可
- ・セルフチェック時の騒音レベル 70kW~150kW 66dB~67dB
- ・通常運転時の騒音レベル 72dB~79dB (本体から7m地点で測定)

50Hz 空冷式 / 水冷ガスエンジン非常用発電機

GUARDIAN® SERIES

PROTECTOR® SERIES

8kVA・10kVA・13kVA (単相)



Model. 6269
8kVA

LPガス	定格出力	8kVA
都市ガス	定格電圧	100/200V (単相)
天然ガス	定格周波数	50Hz
	エンジン排気量	530cc
	エンジン回転数	3000rpm
	サイズ(mm)W×D×H	W1218×D637.6×H731.9
	重量	175.4kg

17.6kVA・22kVA(単相)
27kVA(三相)



Model. RG02724R
27kVA

LPガス	定格出力	27kVA
都市ガス	定格電圧	200V (三相)
天然ガス	定格周波数	50Hz
	エンジン排気量	2400cc
	エンジン回転数	1500rpm
	サイズ(mm)W×D×H	W1580×D776×H980
	重量	426kg

据置型ガス非常用発電機の特徴

- 液晶表示付デジタルコントローラーを標準装備しており機器の状態が一目で分かります
- 週に1回、12分間のセルフチェック運転を自動的に行います (運転曜日・時間の任意設定可能)
- LPガスと天然ガス (都市ガス13A) の切替が可能です
- セルフチェック運転時の騒音レベルは61dB/22kW~63dB/48kW
- 通常運転時は70dB/22kW~68dB/48kWです (本体から7m地点にて測定)
- 停電から約10秒後に自動稼働、通電復旧後はクールダウンし、1分後に停止します
- 3年間の安心保証



デジタルコントローラー

※ 本発電機は非常用発電機であり常用発電機としての使用はできません

PORTABLE® SERIES

LP5500 / LP3250



仕様

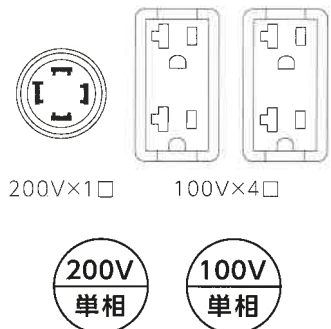
- ・ハンドル付でらくらく移動
- ・稼働時間計を標準装備 (LP5500)
- ・かんたん始動パワーダイヤル標準装備 (LP5500)
- ・燃料の圧力が低下するとエンジン自動停止
- ・過負荷から保護するブレーカー標準装備
- ・パンクレスタイヤ標準装備

ポータブル・ガスエンジン発電機

LP5500 / LP3250
5.50kW / 3.25kW (単相)

LPガス

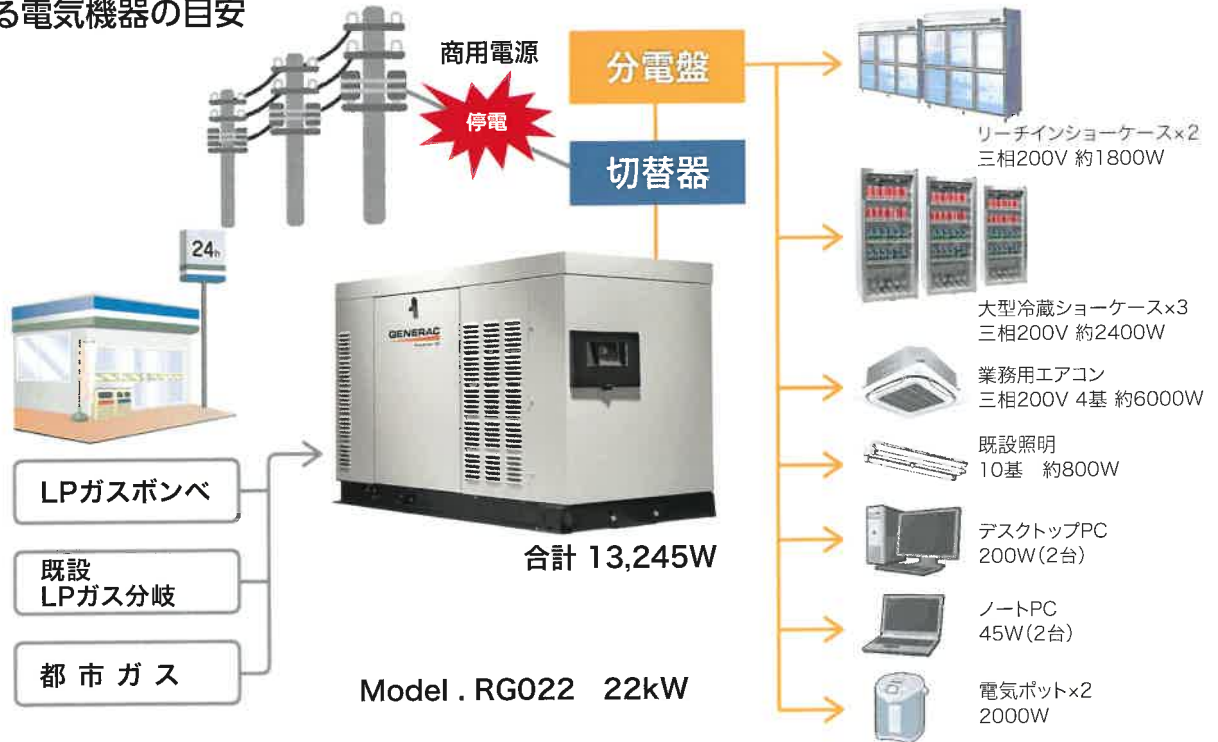
型式	LP5500	LP3250
定格出力	5.5kW	3.25kW
定格交流電圧	100 (VAC) / 200 (VAC)	
定格交流負荷200 (VAC)の電流	22.9 [A]	13.5 [A]
定格交流負荷100 (VAC)の電流	45.8 [A]	27.0 [A]
定格周波数	3600rpm=60 (Hz)	
相	単相	
運転できる温度幅	-17°Cから43°C	
排気量	389 cc	212 cc
エンジンオイル容量	1.0ℓ	0.6ℓ
重量	83.5kg	62.14kg



※ 精密機器 (マイコン制御等) への使用に関しては、別途外付けのインバーターUPSをご用意しております。

据置型 非常用LPガス発電機 (例: コンビニエンスストア)

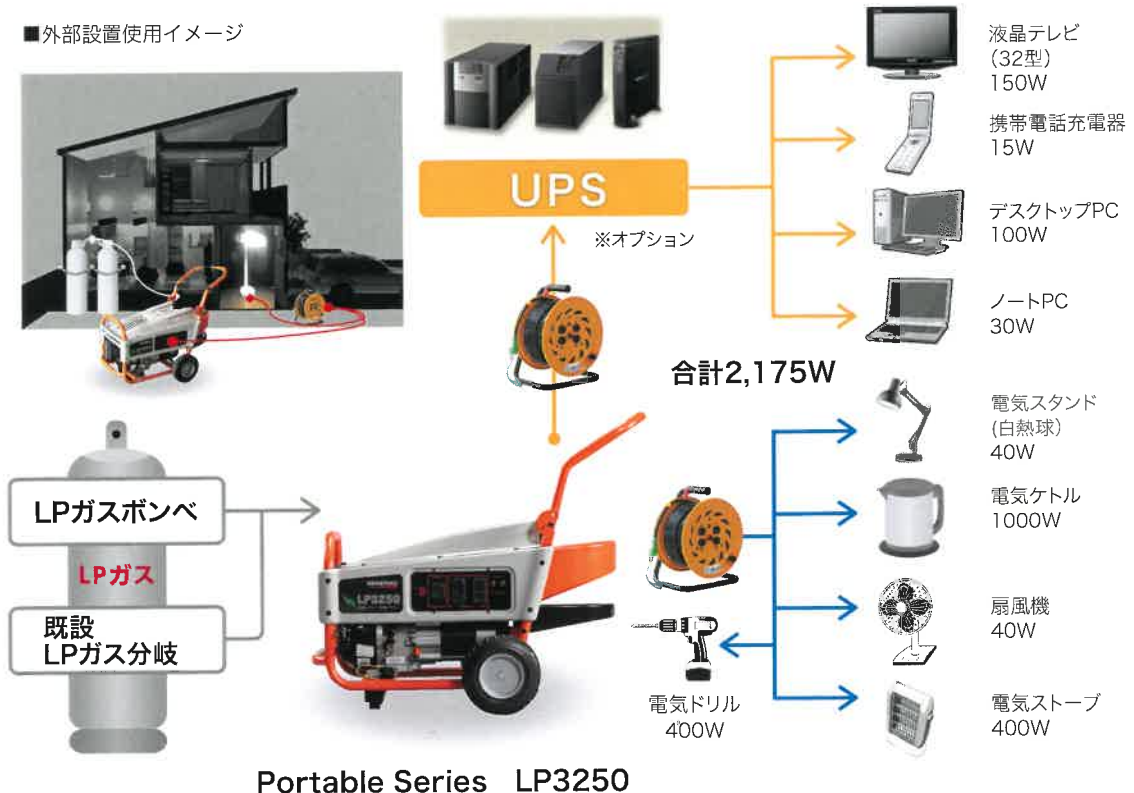
接続する電気機器の目安



ポータブル型 非常用LPガス発電機 (例: 一般のご家庭)

接続する電気機器の目安

■外部設置使用イメージ



GENERAC 3つの安心



年間保証



セルフチェック機能



充実のメンテナンス

- 安心の3年間保証 メンテナンス契約でさらに充実したサービスが受けられます。
※ ポータブル発電機は1年間保証となります。
- 週に1回、12分間のセルフチェック運転を自動的に行います。(運転曜日・時間の任意設定可能)
機器自体が自己チェックを行いデジタルコントローラーの液晶画面に表示します。
- 日本全国ネットワークで充実したアフターサービスを拡大中!

拡大する
日本全国ネットワーク

caplant

● 安心メンテナンスサポート

都道府県にメンテナンス拠点を拡大中!

GENERAC発電機の高品質メンテナンスは、シーエープラントで特別な研修を受けたエンジニアが責任をもって対応いたします。メンテナンス拠点は日本全国に拡大中です。

もしもの時に働いてくれる。

そのためにも定期点検と整備で安心を!

有事の際に確実に起動することが非常用発電機の使命です。

- ・ 定期機器メンテナンス ・ 電気事業法に基づく点検 ・ 消防法に基づく点検

※詳しくは担当者にお問い合わせください。

● GENERAC発電機

専用ホームページを開設しました。
機器の使用方法動画も好評公開中!

アメリカでNo.1のGenerac LPガス非常用発電機を安心サポートで提供します

お問い合わせはお気軽に ☎
☎ 075-863-3300

万が一に備えて・・・災害時でも電力供給が可能
非常用発電機のご提案
容量及びバルク貯槽でどこでも供給可能! 災害に強いLPガスで非常時の電力供給をバックアップします

製品情報 product
技術資料
発電機 Q&A generator Q&A
会社概要 company
代理店募集 distributor

全額各社で保証中! 自衛隊の装備も採用しています
非常用発電機 説明会開催中!
GENERAC LPガス非常用発電機
自衛隊の防弾装備、実際の使いみち、メンテナンス方法など
進んでいます! 募入前研修
GENERAC LPガス非常用発電機

● 保全に関する法令基準

法令	対象物	点検期間	点検内容	基準
電気事業法	電気工作物すべて	保安規程による	日常巡視 日常点検 定期点検 精密点検	保安規程
建築基準法	特定行政庁が指定するもの	特定行政庁が定める期間 (6ヶ月から1年に1回)	外観検査 性能検査 非常用発電機は30%以上の実負荷試験	建設設備の検査の方法及び判定基準 (告示)
消防法	・ 特定防火対象物 又は非特定防火対象物で、法令で定められているもの ・ 特定一階段防火対象物	6ヶ月に1回の機能点検 1年に1回の総合点検	電源配線を除く全ての消防用設備の外観及び機能点検 屋内消火栓設備、スプリンクラー設備、自動火災報知設備、非常用発電機設備等が十分に機能するかを実際に確認 非常用発電機は30%以上の実負荷試験	点検基準 (告示) 点検要領 (通知)

※詳しくは担当者にお問い合わせください。

GENERAC 発電機

スマートフォンはQRから →

